

一般社団法人 日本生態学会

2023 年度第 4 回通常理事会

1. 日時：2024 年 2 月 17 日（土）13:00～17:12
2. 場所：東京国際フォーラム G504 会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）宮下直、北島薫、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久米篤、
木村恵、村岡裕由、吉田丈人、近藤倫生、辻和希、鏡味麻衣子、
佐竹暁子、日浦勉、酒井章子、工藤岳、小泉逸郎、鈴木牧、
中野伸一、和田直也
 - ・監事：瀧本岳、大塚俊之
 - ・オブザーバー：富松裕、永光輝義、丑丸敦史、半場祐子
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 20 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い宮下直会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、宮下直会長、瀧本岳監事、大塚俊之監事とし、議事録作成者は立田晴記専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて立田専務理事より庶務 2 件、会計 6 件の報告及び 2023 年会員数の報告があった。
 - ・（株）ワタナベ流通より 50 万円の寄附があった。
 - ・会員数は 2022 年より減少しているとの報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて富松編集長より投稿規定の一部改訂、受賞記念論文の掲載状況、Data Articles に関連するデータベースの移行について、ESJ71 でのフォーラム開催について報告があった。
3. 出版状況報告
 - ・資料 3 に基づいて久米出版担当理事より英文誌冊子体廃止検討の経緯について、BES2023 出展、生態学会大会への海外参加者旅費支援制度検討、

DRYAD からの提案について報告があった。

- ・ Ecological Research 冊子体の価格が大幅に値上がりすることが昨年 12 月に判明したため現在の会費で提供することが難しく、今後の対応について至急検討の必要があるとの説明があった。

4. 大会準備状況報告

- ・ 資料 4 に基づいて鏡味理事より ESJ71（横浜）準備状況について概ね順調に準備が進んでいること、非常時対応の行動計画について報告があった。

5. 各種委員会報告

<キャリア支援専門委員会>

- ・ 木村理事より大会託児支援について引継ぎや今後の進め方について委員会内で検討しているとの報告があった。

<情報交流専門委員会>

- ・ 資料 5 に基づいて村岡理事よりメーリングリスト Jeconet の状況報告があった。

<野外安全管理専門委員会>

- ・ 資料 5 に基づいて宮下会長より「フィールド調査における野外管理マニュアル」の書籍化概要が決まり出版に向けての準備が進んでいるとの報告があった。

6. 監査報告

- ・ 資料 6 に基づいて瀧本監事より 2023 年度の事業報告、計算書類および付属明細書、そのほか理事の職務執行についての監査を行い適正に行われたことが報告された。

7. INTECOL 報告

- ・ 資料 7 に基づいて村岡理事より INTECOL 執行体制の状況報告があった。

8. 自然史研究振興賞応募募要領改定案報告

- ・ 資料 8 に基づいて工藤理事より自然史研究振興賞応募募要領改定案の説明があった。理事からの意見をもとに、選考委員会にて応募者に賞の趣旨が伝わりやすい具体的な文言に修正し再提案することになった。

審議事項

第1号議案 定款改訂について

- ・ 資料 9 に基づいて赤坂庶務担当理事より定款の機関紙に関する改定案の説明があり、改定案が全会一致で承認された。

第2号議案 入会および会費規則の改訂について

- ・ 資料 10 に基づいて赤坂庶務担当理事より Ecological Research 冊子価格が大幅に値上げにより会員への配布を維持することが難しくなったため、Ecological Research 冊子体の廃止とそれに伴う入会および会費規則の変更案について説明があり、冊子体廃止と規則改訂案が全会一致で承認された。
- ・ 今後規則の句読点表記を「、」「。」に統一していくことになった。

第3号議案 会誌刊行規程改訂について

- ・ 資料 11 に基づいて赤坂庶務担当理事より会誌刊行規定改訂の提案があり全会一致で承認された。

第4号議案 就業規則改訂について

- ・ 資料 12 に基づいて立田専務理事より就業規則の昇給年齢上限を廃止する提案があり全会一致で承認された。

第5号議案 2023年度決算案について

- ・ 資料 13 に基づいて辻会計担当理事より 2023 年決算報告があり、単年度収支では 1100 万円ほどの赤字だが、予算としてこれまでの余剰金を大会や英文誌 OA 支援に支出し単年度 1780 万円ほどの赤字を見込んでいたため、予算より赤字が抑えられたとの報告があった。
- ・ 2023 年一般会計・特別会計・貸借対照表の決算について全会一致で承認された。

第6号議案 2024年度予算案について

- ・ 資料 14 に基づいて、辻会計担当理事より 2024 年予算について約 1800 万円の赤字見込みとしているが、繰越金が多いため初の大会ハイブリッド開催で費用がかかるが参加費を抑えていることや、OA 出版費用を多めに捻出することがこれまでの理事会で承認されているとの説明があった。
- ・ 2024 年予算について全会一致で承認された。

第7号議案 役員選任について

- ・ 北島副会長より2024年3月の任期満了に伴う新理事・監事候補の提案があり全会一致で承認された。

第8号議案 大会開催について

- ・ 資料15に基づいて宮下会長より2027年3月の大会開催地区について、順番として中部地区になるとの説明があり、中部地区に依頼することが全会一致で承認された。

第9号議案 委員の承認（自然保護、大会企画）

- ・ 資料16に基づいて和田理事より2024年4月からの自然保護専門委員リストの提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料16に基づいて宮下会長より大会企画委員会オンライン部会委員の提案があり、全会一致で承認された。

第10号議案 ER編集委員会からの審議事項

- ・ 資料2に基づいて富松ER編集長より委員追加の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料2に基づいて富松ER編集長よりER論文賞候補論文の説明があり、編集委員会から推薦のあった5報について全会一致で承認された。

第11号議案 サポートレターについて（東北大、筑波大）

- ・ 資料17に基づいて宮下会長より東北大学災害科学国際研究所・防災科学技術研究所および筑波大学下田臨海実験センターへの共同利用・共同研究拠点認定に向けた要望書について説明があり、生態学会より提出することが全会一致で承認された。

第12号議案 土壌肥料学会要望書賛同について

- ・ 資料18に基づいて宮下会長より土壌肥料学会からの「学習指導要領の次期改訂に向けた『土壌教育に関する要望書』」について説明があり、生態学会として賛同することが全会一致で承認された。
- ・ 土壌肥料学会へは要望書提出先について文部科学大臣の他にも検討するようコメントを付記して回答する。

第13号議案 生態学会活動方針（アジェンダ）について

- ・ 資料19に基づいて立田専務理事より生態学会活動方針（アジェンダ）案の

説明があり、理事からの意見により項目の記載順の変更と若干の文言変更した修正案が全会一致で承認された。

第 14 号議案 ダイバーシティ宣言について

- ・ 資料 20 に基づいて立田専務理事より日本生態学会ダイバーシティ推進宣言案の説明があり、全会一致で承認された。

第 15 号議案 自然保護専門委員要望書について

- ・ 資料 21 に基づいて和田理事より自然保護専門委員会からの 2 件の要望書案について説明があった。
- ・ 「ため池防災特措法に基づく防災事業における提体植生配慮の要望書」案を自然保護専門委員長名で提出することが全会一致で承認された。
- ・ 「瀬戸内海（上関）における使用済み核燃料中間貯蔵施設の建設計画に関する要望書」案について議論し、学会名での提出を提案するには準備時間が不十分なため、自然保護専門委員会にて内容を再検討することになった。

第 16 号議案 総会の日時及び場所並びに

議事に付すべき事項の決定について

- ・ 資料 22 に基づいて宮下会長より提案があり、総会日時および場所並びに議事に付すべき事項について全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、17 時 12 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2024 年 2 月 17 日

会 長 : 宮下 直 ⑩

監 事 : 瀧本 岳 ⑩

大塚 俊之 ⑩